

報 告

# 第38回日韓技術士会議報告

A Report on 38th Japan-Korea Professional Engineer Conference in Niigata

第38回会議は昨年政令都市となった新潟市で16年ぶり2回目の開催となった。このたびの会議のテーマは『東北アジアの発展のための技術士の役割 物, 知, 人の交流に向けて』である。会議は北陸支部会員の献身的行動に支えられ, 満足感をもって終えることができた。

新潟市は日本一の米産地であり, その流通のため江戸時代初期から新潟港が開かれ, 明治からは鉄道の開通, 信濃川放水路などが建設され, 昭和40年代以降から, 新幹線の関越, 北陸, 磐越路などが整備され, 日本海沿岸諸国との交流拠点として重要な役割を担っている。

本会議は, 第1回から第21回まで両国の首都で行われていたが, 回を重ねるごとにその成果が現われ, 両国の産業構造をつぶさに学ぶには地方での開催が不可欠と両国で一致した。第22回会議で新潟市が地方都市で初めて開催地として選ばれたのは, 支部の事情なども含め, 会議を受入れやすい環境にあったことによる。

会議は参加者も増加の一途をたどり, 事前に両国で協議会が開かれており, 各分科会での会合が専門化して両国の技術交流に大きな役割を果たしている。また, 技術士間の交流, 協力, 及び取引も表面に現われないが相当数にのぼる。これも何よりも両国技術士の相互理解, 相互信頼が進んだことによる。

第38回会議が再び新潟市で開催されたのは, 20世紀終わりから日韓両国とも, 中国, ロシア, モンゴル, 北朝鮮を含むこの地域に関心を持ち, 日本では北東アジア大交流時代の拠点の一つと位置付けられたためである。

## 【会議概要】

全日程2008年9月28日(日)～9月30日(火)

参加者 日本(技術士, 同伴者, 事務局)200名  
韓国(技術士, 同伴者, 事務局)162名

## ■プレイベント

青年技術士	第4回日韓友好親善サッカー(新潟市宮陸上競技場)公式戦は引き分け(1:1)
女性技術士の会	技術発表・懇親(ホテル日航新潟・桃李)両国で約20名が参加

## ■式典・全体会議(9月29日(月)9:00～17:10)

会場 ホテル日航新潟

両国会長挨拶 全員参加 (逐次通訳)	高橋 修(建設, 総合技術監理), 李庭満(土木施工)
来賓	新潟県知事(代理 土木部技監 山岸潔氏), 新潟市長(代理 副市長 堀川武氏), 駐新潟大韓民国総領事 金忠慶氏, 国土交通省北陸地方整備局長 吉野清文氏

祝辞は金忠慶, 吉野清文の2氏よりいただいた。終了後, 同伴夫人達はレディースコースに参加。秋たけなわの越後路へ向かった。

## ■全体会議

基調報告 (逐次通訳)	中山輝也(応用理学), 朴慶夫(道路及び空港, 土木施工)
基調講演 (逐次通訳)	「北東アジアの発展のための技術士の役割 物, 知, 人の交流に向けて」三橋郁雄(建設, 港湾及び空港) 「東北亜細亜発展のための技術士の役割-人・物・文化」 朴慶夫(道路及び空港, 土木施工)



写真1 式典・全体会議

## ■分科会(13:10～17:10逐次通訳)

第1分科会「環境, 資源, エネルギー」座長 中西利美(上下水道)
「環境と経済の両立をめざした自然エネルギーの普及」市村一志(建設), 「水質総量規制指定海域における海洋環境評価と生物多様性の保全」鈴木千賀(水産 技術士補), 「Super Capacitorを使用したエネルギー貯蔵システム」康龍成(電気鉄道), 「韓国伝統地理文化環境(風水地理)を考慮した景観計画の樹立」劉完鍾(都市計画), 「富川市 遠美ニュータウン再整備促進計画」柳忠鉉(都市計画)
第2分科会「建設と安全, 防災」座長 伊藤徹(建設, 総合技術監理)
「日本の雪氷災害とその対策」上石勲(建設), 「新潟県中越地震・中越沖地震による土砂災害発生の特徴と危機管理の課題」平野吉彦(応用理学), 「中学校化学実験安全教材開発と適用効果に関する研究」金斗煥(化工安全), 「周辺景観の調和を考慮した覆蓋トンネル事例研究」金學清(土質及び基礎), 「○○現場掘削中の崩壊事故に関する災害の原因と対策」朴相國(土質及び基礎)
第3分科会「技術と倫理, 技術者資格」座長 高堂彰二(上下水道, 総合技術監理)

「技術者倫理と経営者倫理」屋敷弘（建設、農業、総合技術監理）、「技術士よ、組織のトップマネージメントを目指そう！」橋本義平（情報工学）、「金山粘土の堆積特性、基礎空法の選定として地盤改良の実績」高光珍（土木施工）、「FTA体制下での韓日技術士の程よい協力案」沈淳輔（水資源開発、土木施工）、「高油價時代の韓国海外建設進出の現状と技術士の役割」李康建（都市計画）

#### 第4分科会「産業連携における技術士の役割」

座長 笠原弘之（電気電子）

「日中交易製品の安全性技術に関する交流調査」南野竹男（電気電子）、「産学連携、この難しきこと」平野輝美（化学）、「東北産 IT アウトソーシング協力案」文幸奎（情報通信）、「A New Location Based Service Technology for Building Automation System」李仁沃（産業計測制御）、「産業発展に対する技術士の能力」鄭炳淑（工場管理）

#### 第5分科会「技術士会における青年層の課題」

座長 内藤竜治（電気電子）

「日本の青年技術士の現状と青年委員会の取り組み」倉井真理（建設）、「日本青年技術者を取り巻く諸問題」中藤智子（化学 修習技術者）、「若手技術者には「温故知新」の精神が不可欠」渡邊弘毅（建設）、「The Global Challenges and Future Overview Excerpt from UN Millennium Project」全相伯（建築構造、建築施工）、「韓国技術士会の紹介」白伊鎬（道路及び空港）

＊特別展示及びポスターセッション「日韓技術士交流38年の歩み」として日韓会議40周年に向け、パネル18枚を展示。この他、参加者が小論、報告、コラム等を1枚で表示発表するポスターセッションでは日本16点、韓国2点。

＊レディースコース 参加者60名。水族館マリニピア日本海、カーブドッチワイナリー、新潟ふるさと村、知足美術館 韓国秀作作家展。（韓国弘益大学グループ15名が参加）



写真2 分科会

＊友好親善晩餐会(18:30～21:00)多数の来賓を招き、両国の友好親善を深め楽しんだ。晩餐会は新潟名物の新潟万代太鼓(福鵬会)の雄壮なお囃子に迎えられて華やかな幕開けから始まった。

新潟県知事（代 副知事 小熊博）、新潟市長 篠田昭、韓国総領事 金忠慶、ロシア総領事 クラコフ・ヴァシーリ、国土交通省北陸地方整備局長 吉野清文、新潟大学長（代 理事・副学長 仙石正和）、長岡科学技術大学長（代 理事・副学長 西口郁三）、長岡工業高等専門学校長（代 教授 岩波基）、新潟商工会議所会頭（代 専務理事 南英雄）、新潟経済同友会筆頭代表幹事（代 専務理事 水間秀一）、新潟放送社長 竹石松次、新潟日報社長（代 常務取締役 竹内希六）、韓国領事 盧 載容、(財)新潟県国際交流協会理事長（代 常務理事 土田純一）、(財)新潟市国際交流協会理事長 加藤健一、(財)新潟県県央地域地場産業振興センター理事長（代 専務理事 伊藤茂一）、(財)環日本海経済研究所理事長（代 専務理事 佐藤衛）、新潟県国際課長 渡辺明夫、韓国弘益大学 教授 韓陳満夫妻、染色家 宋時子。21名。

開会の辞を日韓技術士会議実行委員兼青年技術士実行委員 齊藤真晴（建設）が行い、日韓両国会長挨拶、小熊博副知事が泉田裕彦新潟県知事代



写真3 友好親善晩餐会

理で祝辞、鏡開きの後、来賓を代表して篠田昭新潟市長が乾杯を行った。

とくに泉田裕彦新潟県知事の代理で出席した小熊博副知事は、多数の両国技術士の来訪を心から歓迎するとともに、環日本海拠点の新潟を選んだことに感謝の気持ちを伝え、科学技術立国を目指す両国が、共通の資格のもとに会合を継続して行っていることの有意義を強調した。

功労者表彰は高橋会長より、李桓範（前韓国技術士会会長 港湾及び海岸）、余浩榮（情報管理）、沈淳輔（水資源開発）に感謝状が贈られた。アトラクションは江戸時代から伝統ある新潟芸妓の手踊りが行われた。

テーブルでは新たな出会い、歓談と進み、韓国技術士子女の独唱の後、今は欠かせないものとなっている韓国婦人によるコーラス、サーランへ他の歌が華を添えた。

閉会の前、次回開催地の仁川市から参加した金振英都市計画局長（測量及び地形空間情報）より仁川市の紹介があり、日韓技術士会議実行委員兼開催地運営委員長 小林武夫（建設、総合）の挨拶で閉会となった。

#### ■産業・観光視察（9月30日 終日）

##### A 佐渡コース（バス3台）

新潟港→両津港→尖閣湾揚島遊園→佐渡金山→佐渡奉行所→昼食夫婦岩→尾畑酒造→朱鷺森公園→両津港→新潟港

##### B 金属加工視察（バス1台）

共和工業(株)(プラスチック用金型)→地場産業センター→岩室だいの湯→弥彦神社→大河津分水資料館・可動堰視察→日本海の夕日(車窓)

詳しい情報は技術士会 日韓技術士会議実行委員会ホームページで公開。

宮原 宏（みやはら ひろし）

技術士（建設部門）

M.C.Eミヤハラコンサルティングエンジ

ニヤーズ 主宰技術士

e-mail : miya\_hara@navy.plala.or.jp

